

県政レポート

ほんまに
やらなもん!

VOL.19



ホームページ

Go!
Go!
白井
ゆきのり

県外視察（長崎県・佐賀県）

長崎県庁舎

長崎県庁舎は、老朽化・狭隘化・分散化の課題と機能整備が喫緊の課題となり、2017年に新築されました。災害発生時には、重要な防災拠点施設として、高い安全性を確保し、防災拠点としてその活動を支援する庁舎として生まれ変わりました。また、省資源・省エネルギー設備を採用し環境に配慮され、高齢の方や障害のある方など来庁される誰もが、安心して快適に利用できるようにしています。こうした、庁舎整備に向けた経緯や庁舎の特徴等について調査してまいりました。

私たちの滋賀県庁舎は、昭和14年（築85年）につくられ、全国でも希少な有形文化財として登録され大切に使われています。これからも、県民の期待に充分に応えていける県庁舎のありかたについて、考察していきます。

長崎県「佐世保工業高等専門学校」

滋賀県では次代の社会を支える高度専門人材を育成するとともに、技術者育成・交流のハブとして地域産業・社会に貢献するため、県立の高等専門学校の令和10年度の開校に向けた準備を進めています。



滋賀県では次代の社会を支える高度専門人材を育成するとともに、技術者育成・交流のハブとして地域産業・社会に貢献するため、県立の高等専門学校の令和10年度の開校に向けた準備を進めています。

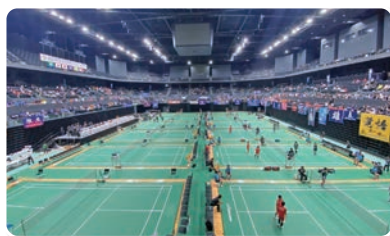
令和6年度は教育内容、教員等について具体的な検討が行われていることから、高等専門学校に求められるもの、設置費用、実習設備・必要施設、運営状況等についての調査を行いました。

佐世保工業高等専門学校：1962年開校。長崎県佐世保市沖新町にある国立高等専門学校。本科約840人、専攻科約50人の生徒が在学。

佐賀県「SAGA サンライズパーク (SAGA アリーナ)」

SAGA サンライズパークは、2024年開催された「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」の会場として整備されました。その中でもSAGAアリーナは、九州最大級の多目的アリーナで、メインアリーナ観客席は約8,400席。プロスポーツの試合や人気アーティストのコンサートなど、子どもから大人まで楽しめるエンターテインメントが催せる施設です。そうした施設整備の状況と、大会開催時における活用状況について調査してまいりました。

大会運営のボランティアや来県者へのおもてなしのほか、大会関連イベントへの参加や各種競技会での観戦・応援など、県民の皆さんが気軽に参加できる取組みもあります。佐賀県から渡されたバトンを持って、大会を盛り上げましょう。

第41回 全国都市緑化
かわさきフェアを視察

地元開催を!

全国都市緑化フェアは、国民ひとり一人が緑の大切さ認識するとともに、緑を

守り、楽しめる知識を深め、緑がもたらす快適で豊かな暮らしがある街づくりを進める国内最大級の緑のイベントです。1983年から全国各地で毎年開催されていますが、近畿では滋賀県と和歌山県が未開催ということもあり、滋賀県造園協会も県内開催を熱望されています。そこで先行地域の実施状況の視察を行い、県内開催にむけての準備のために調査してまいりました。

また、草津市では令和3年度以降の「第3次草津市みどりの基本計画」を策定。身近にある公園の魅力を高め、市民の皆様が公園を活発に活用していただけるように基本方針を定めています。この計画と整合するように全国都市緑化フェアの誘致を進めたいと考えております。

滋賀県多文化共生推進プランを
策定します

草津市国際交流協会主催「第3回外国人による日本語スピーチ大会」では、発表者の皆さんは熱心に日本語を学び、日ごろの思いを披露してくれました。

社会・経済のグローバル化や人口減少、高齢化が進むなど、私たちを取り巻く社会環境の変化に伴い、急増する外国人住民への施策の在り方が全国的な課題となっています。2010年に策定された「滋賀県多文化共生推進プラン」をこの度、経済・社会情勢の変化やそれに伴う課題への対応、定住化傾向の外国人住民の増加や国籍の構成変化などの現状を踏まえ、より実情にあったプランとなるよう見直しを行います。（令和7年3月 策定予定）

滋賀県で暮らし、働き、学ぶすべての人が、国籍や民族などの違いにかかわらず、相互に人権と個性を尊重しながら、多様性を生かして活躍できる多文化共生の地域社会を共に創りましょう。

半導体製造工場の視察
（三重県桑名市）

ユニテッド・セミコンダクター・ジャパン株式会社（USJC）は、日々の暮らしに欠かせないさまざまな電子機器の中に組み込まれている半導体を開発・製造されている企業です。

三重工場では、1984年に最先端メモリ等の開発・量産拠点として操業を開始し、スーパーコンピュータ「京」のCPU製造をはじめ、さまざまな技術の発展に貢献されてきました。そんな最先端の技術である半導体に注力しながらも、雇用の創出や地域の活性化にも取り組まれています。工場のハイブリッド免震構造の導入やLNGサテライト基地の設置などの災害リスクへの対応、省エネ技術の導入や環境にやさしい取り組み、さらには持続可能な社会の実現への協働について調査してきました。



ご挨拶

皆様にはお健やかに新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年は、総務・企画・公室常任委員長として、県政の諸課題に取り組んで参りました。また、議会では福祉と地域産業、交通について質問いたしました。

今年は県下での「国民スポーツ大会・障害者スポーツ大会」だけでなく、「大阪万博」が開催されることで、多岐にわたる効果が期待されています。この機会に県議会議員として、自分の理想を掲げ行動していけるのも、皆様に支持していただき育てていただいたおかげと、心から感謝の気持ちでいっぱいです。あらためまして、温かいご支援とご厚情を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。

引き続き、地域の皆様の声をいただきながら、県政の課題に、精一杯取り組んで参ります。

本年も、皆様にとりまして素晴らしい年となりますよう、お祈り申し上げます。

令和7年1月吉日

滋賀県議会議員

白井幸則

代表質問

11月定例会議



質問者 白井 幸則 議員

県庁舎等のあり方について

Q 県民に望まれる県庁舎の実現について知事の決意を伺う。
A 県庁舎につきましては、築85年の本館をはじめ、各棟は今後10年から20年の間に、建て替えや大規模改修が必要な時期を順次迎えますことから、県庁舎全体についての一体的な検討に着手する必要があると認識しております。

スポーツ振興と健康しがについて

Q 滋賀での国スポに向けた天皇杯獲得の決意を伺う。
A 今年の佐賀国スポでは、これまでの取り組みの成果が現れ、天皇杯8位というびわこ国体以来の入賞を収めることができました。私も現地に赴き、選手の皆さんの誇らしい顔、選手を支え応援いただいたみなさんの笑顔に触れ、改めて天皇杯・皇后杯を獲得し、県民の皆さんと喜びを分かち合いたいと強く感じたところでございます。来年開催されます「わたSHIGA輝く国スポ」に向けて、残された期間で合宿や遠征の機会を充実させるなど、これまで以上に質・量を高めた選手強化に取り組むことで、さらなる競技力の向上を図り、天皇杯・皇后杯の獲得を目指して取り組みをすすめてまいりたいと存じます。大規模大会の開催は、スポーツ振興はもちろんのこと、地域経済への波及効果も大きいことから、その誘致は施設運営の大きな柱の一つとして捉えているところでございます。全国大会や日本代表等の合宿の開催に向けて、「攻め」の誘致活動を展開してまいりたいと思っております。

森林政策について

Q 現地を調査された森林、山の現状について、将来を見据えてどのように感じておられるのか伺う。
A 7月には、伊吹山からの土砂流出で被災された米原市伊吹地区を訪問させていただき、南側斜面の惨状を目にいたしました。対策強化の必要性を痛感するとともに、酷暑の中、多くの方が土砂の撤去作業等に取り組んでいただいていることを拝見いたしました。改めて被災された方々にお見舞い申し上げたいと存じます。近年の異常な豪雨や森林の放置などによる山の荒廃については、非常に危惧しているところであり、いずれも琵琶湖の源流からの警鐘と受け止め、堰堤の設置などをはじめとする治山事業に取り組む、災害に強い森林づくりを進めてまいりたいと存じます。国民的資産である琵琶湖を取り巻く本県の山々は、命の水源地であり、人々と自然の営みの源でありますことから、この素晴らしい滋賀のやまを健全な状態で次世代に引き継ぐことが、我々の責務であると考えております。本年6月の森林組合の合併による新たな事業展開などを好機と捉え、この機を逸することなく、今後は、森林の適正管理、「良き祖先」として「やま」を健全な姿で継承してまいりたいと存じます。

成長型経済の実現に向けて

Q 半導体産業の振興に向け、今後どのような方針で取り組んでいくのか。
A 半導体産業は、今後もさらなる成長が見込まれるとともに、地域経済の大きなけん引役になると期待されるものでございます。このうち本県では、製造品出荷額が全国4位となる半導体製造装置や素材関連企業の集積に強みがございます。また、大学発の研究開発も進められておりますことから、産業立地戦略の重点分野の1つに位置付けているところでございます。こうした特徴に勝機を見出し、製造装置や素材の研究開発支援をはじめ、関連するサプライチェーンの企業誘致や再投資の促進により、半導体産業の振興を図っていくことが本県にとって効果的であると考えております。

農業農村整備について

Q 儲かる農業の実現に向けてどのような基盤整備や技術指導を進めていくのか伺う。
A ほ場の排水対策にかかる高収益作物への転換や、用排水路のパイプライン化による管理コストの低減とともに、人工衛星で把握した生育データを活用して栽培管理を行うスマート農業技術等の普及により、生産性の向上を図ることで、所得拡大につなげてまいりたいと存じます。

災害に強い道路ネットワークについて

Q 国スポ・障スポ大会に向けた道路整備の進捗状況について伺う。
A 直轄国道につきましては、来年秋に開通予定の国道1号栗東水口道路や、国道8号米原バイパス、国道161号の湖西道路や小松松幅14工区では、工事が順調に進められ、国スポ大会の開会日に間に合う見込みと聞いております。次に、県管理道路につきましては、構造物が概ね完成した山手幹線では、草津市域の約1kmの区間が来年3月に開通し、残る約2kmの区間は国道1号栗東水口道路と同時に開通する予定です。また、主会場へのアクセスルートとなります原松原線「彦根お城トンネル」が今月22日に開通し、来年3月には野洲川に架かる大津湖南幹線「近江妙蓮大橋」が開通する予定です。この間の関係者のご尽力に感謝したいと存じます。

安全なまちづくりについて

Q 「トクリュウ緊急対策」への知事の思いと条例における指針の見直しなどの考えについて伺う。
A 「トクリュウ」による強盗や詐欺などの犯罪から県民を守り、また、県民、特に若者を加担させないよう、警察としっかりタッグを組み、市町や関係機関・団体とも連携しながら、知事・警察本部長メッセージ動画の配信や情報発信等、必要な対策を講じてまいり所存でございます。条例に基づく指針の見直しにつきましては、1月末を目途に緊急対策プランの詳細を県警察とともにまとめる予定であり、それらを踏まえて検討してまいりたいと存じます。

皆様の声を県政に届ける20人

()内は期数 ●委員長 ●副委員長

A map of Shiga Prefecture with 20 circular portraits of council members placed around it. Each portrait is connected to a specific city or region on the map. The members are: 川島隆二 (5) (長浜市), 柴田清行 (2) (彦根市・犬上郡), 谷口典隆 (1) (高島市), 海東英和 (3) (高島市), 井狩辰也 (2) (野洲市), 奥村芳正 (5) (草津市), 白井幸則 (2) (草津市), 加藤誠一 (3) (東近江市・日野町・愛荘町), 周防清二 (3) (東近江市・日野町・愛荘町), 本田秀樹 (2) (東近江市・日野町・愛荘町), 谷成隆 (1) (東近江市・日野町・愛荘町), 目片信悟 (4) (大津市), 桑野仁 (3) (大津市), 桐田真人 (2) (大津市), 田中英樹 (1) (栗東市), 菅沼利紀 (2) (湖南市), 村上元庸 (2) (甲賀市), 小河文人 (1) (近江八幡市・竜王町), 有村國俊 (4) (近江八幡市・竜王町), 重田剛 (2) (近江八幡市・竜王町).